

「エリシャ」  
聖徒伝 137

# 「岩なる主に しがみつけ」

列王記第二13章

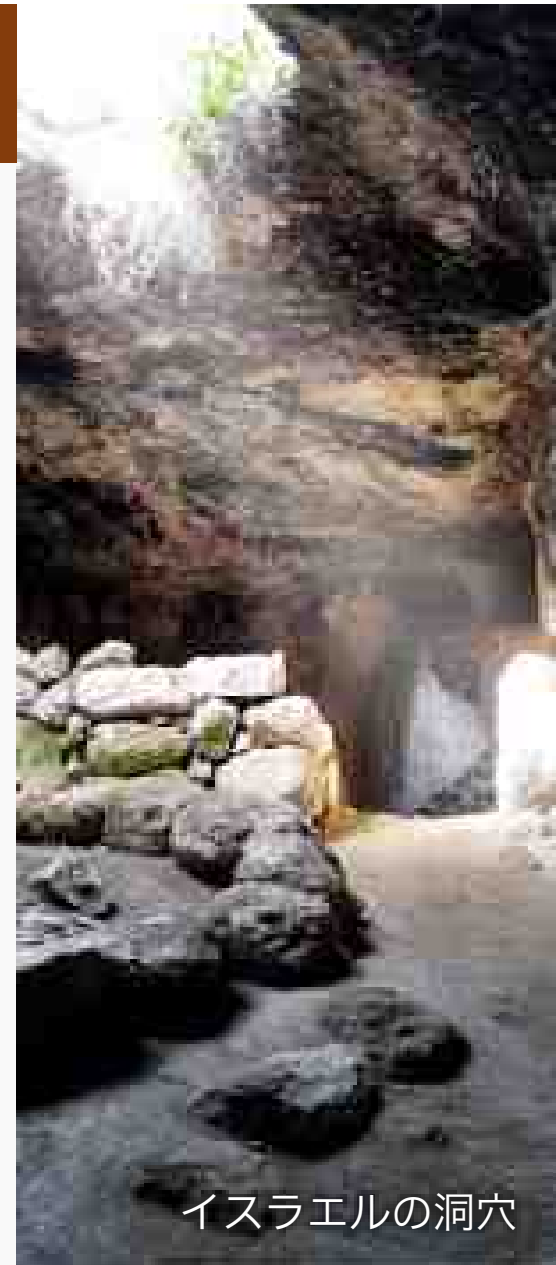
エリシャの死

# アウトライン

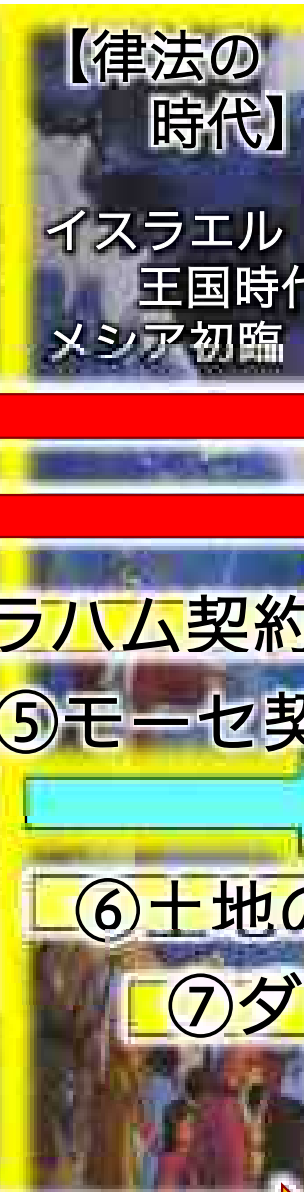
## 0. イントロダクション

- I. 北11代目・エホアハズ 列Ⅱ13章1～7節
- Ⅱ. 北12代目・ヨアシュ 列Ⅱ13章8～13節
- Ⅲ. ヨアシュ王とエリシャ 列Ⅱ13章14～19節
- Ⅳ. エリシャの死後 列Ⅱ13章20～25節
- V. まとめと適用

復活の主にこそ 希望を置いて歩もう



イスラエルの洞穴



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

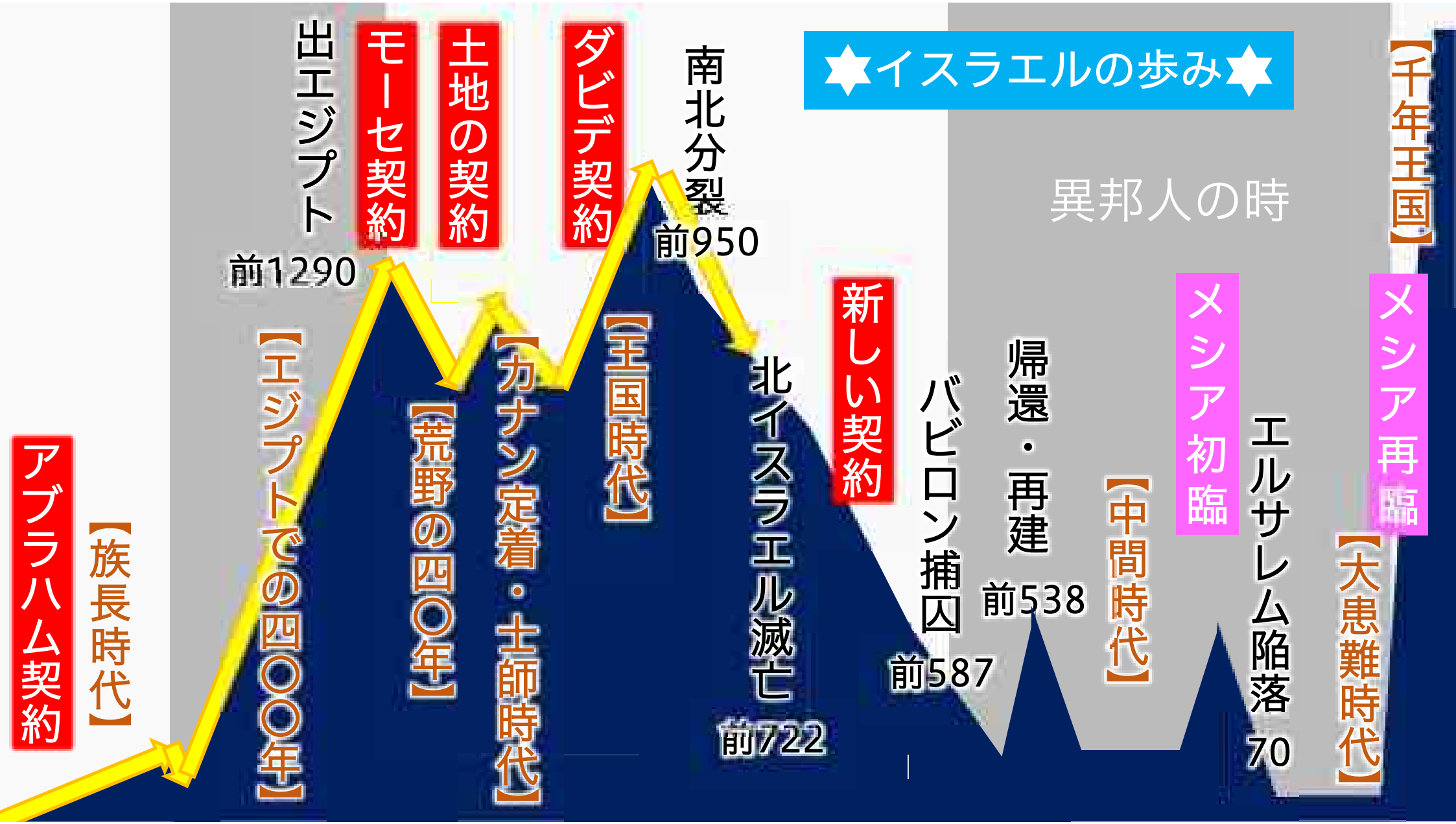
どの時代も  
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト  
前1290

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂  
前950

北イスラエル滅亡  
前722

新しい契約

バビロン捕囚  
前587

帰還・再建  
前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落  
70

【大患難時代】

メシア再臨

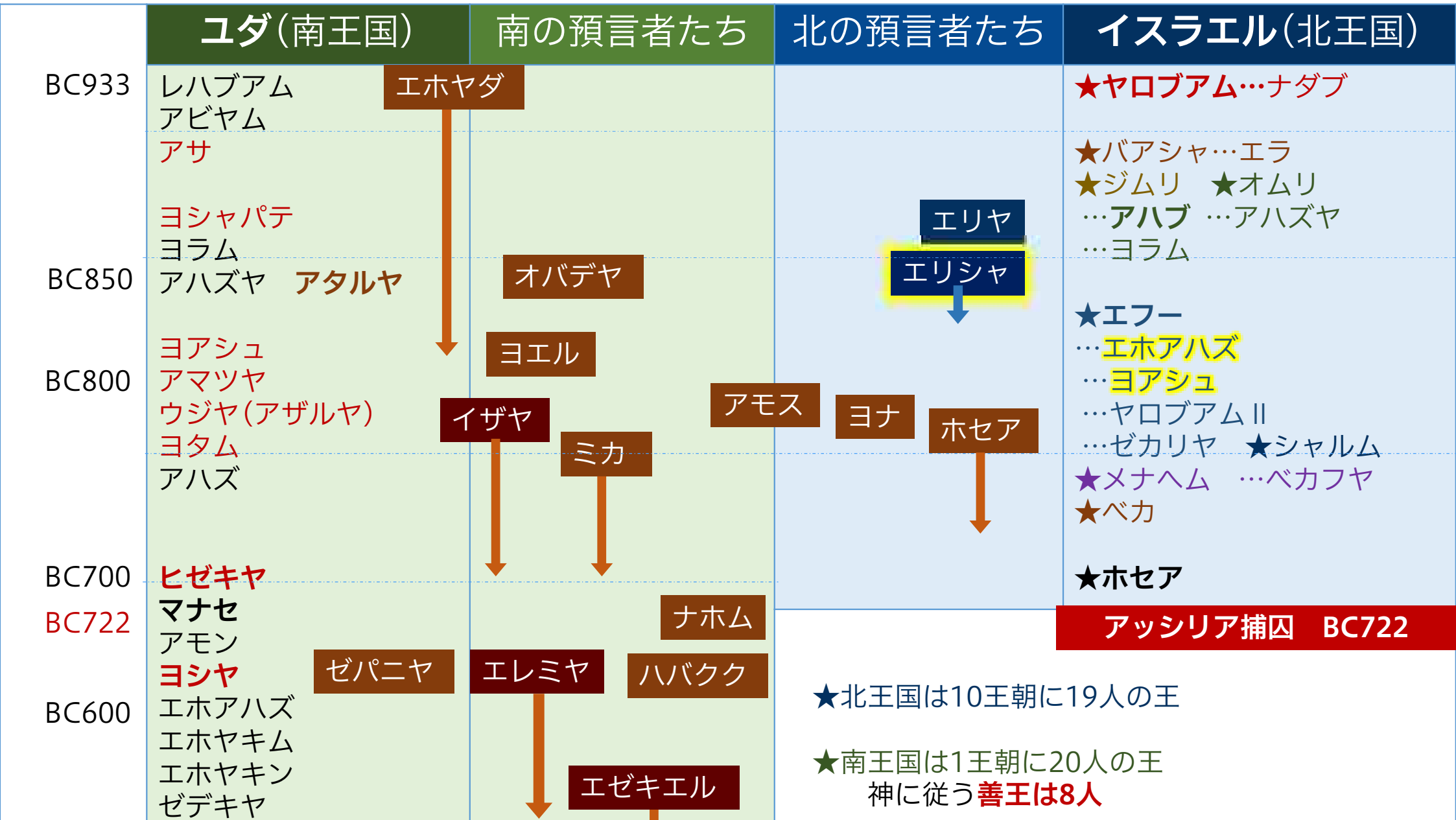
【千年王国】

異邦人の時

列王記 (第一〜第二)

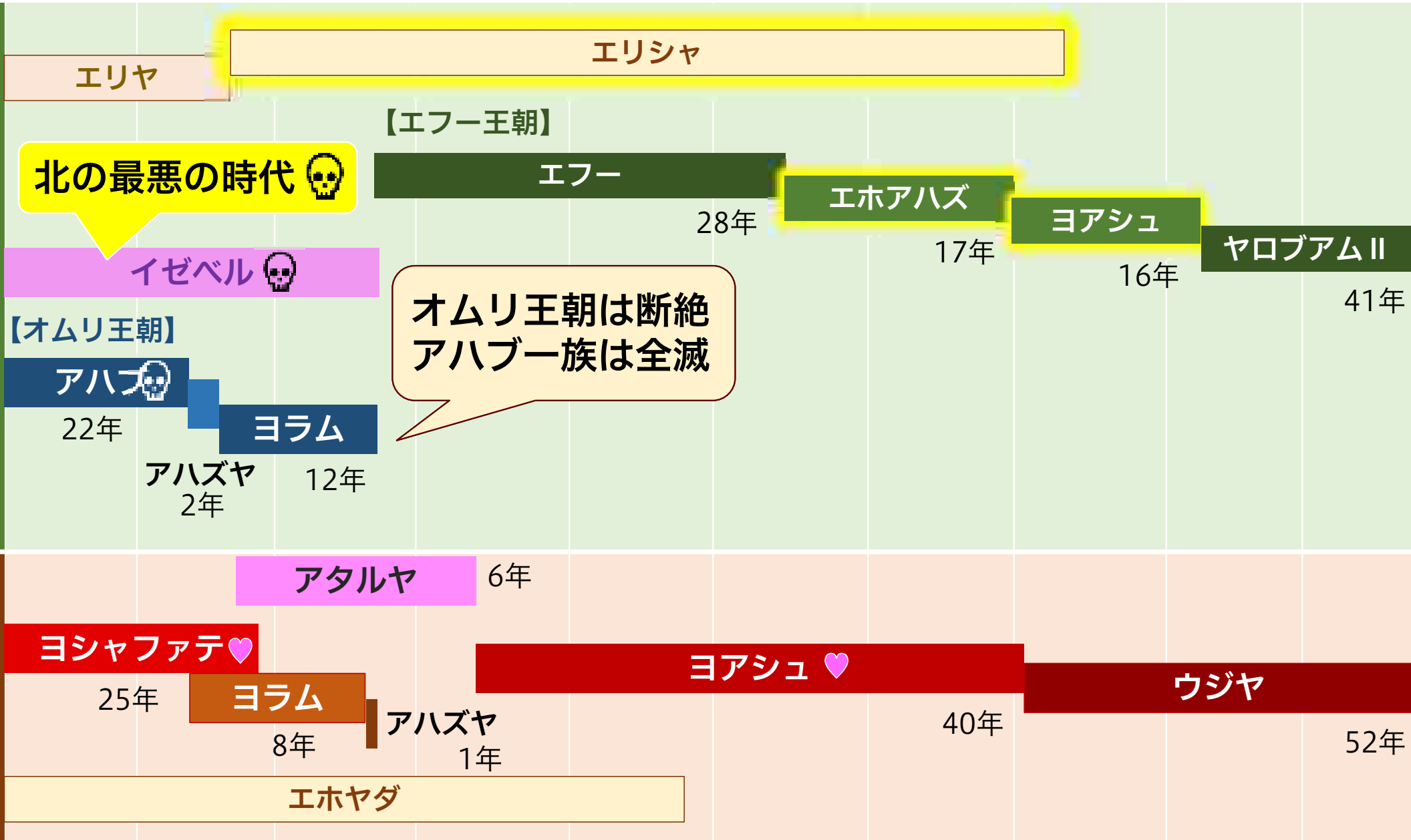
第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ (アハブ王の生涯)	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バアシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ ホセア	
	2〜13章	預言者エリシャ			
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			アッシリア捕囚 BC722
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			★北王国は10王朝に19人の王 善王はなし ★南王国は1王朝に20人の王 神に従う善王は8人

バビロン捕囚 BC586



北王国 イスラエル

南王国 ユダ



## 【エリヤからエリシャへ】 II 列王記

- アハブ王が、バアル礼拝を推進し、預言者たちを殺害した最悪の時代、主は**エリヤ**を用いられた。
- **エリヤ**は大干ばつの裁きを告げ、カルメル山でバアルの祭司に勝利した。イゼベルに命を狙われ、孤独に逃亡したエリヤに、主が語りかけられた。
- イスラエルに、七千人の信仰者が残されていた。**エリヤ**は、エリシャを後継者として召命し、預言者学校を建て、神の預言者を育成した。





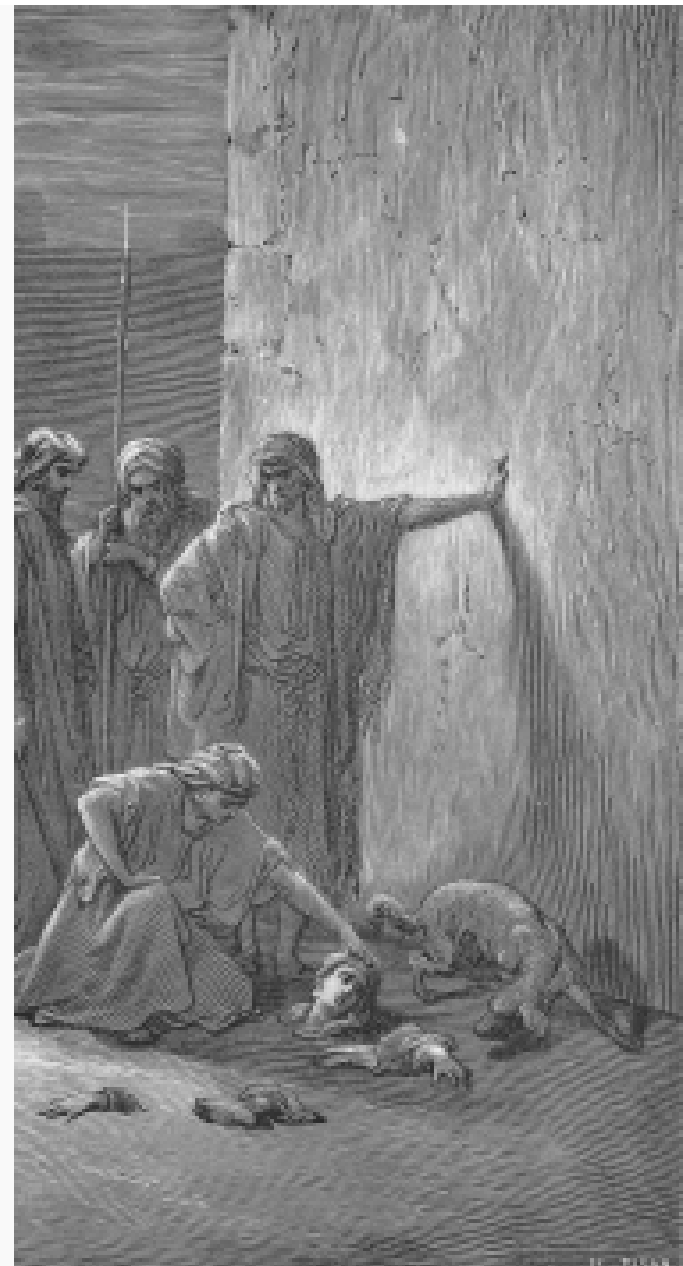
## 【エリシャの使命】 II 列王記

■ 携拳されたエリヤの働きを**エリシャ**が継いだ。

■ **エリシャ**は、アラムのハザエルと、アハブの部下エフーに油を注いだ。

ハザエルが、アハブの子ヨラムの軍を打ち破り  
エフーが、ヨラムとイゼベルの命を絶った。

■ **エリシャ**を通して、主がエリヤに告げられた、アハブ一族への裁きが成し遂げられた。



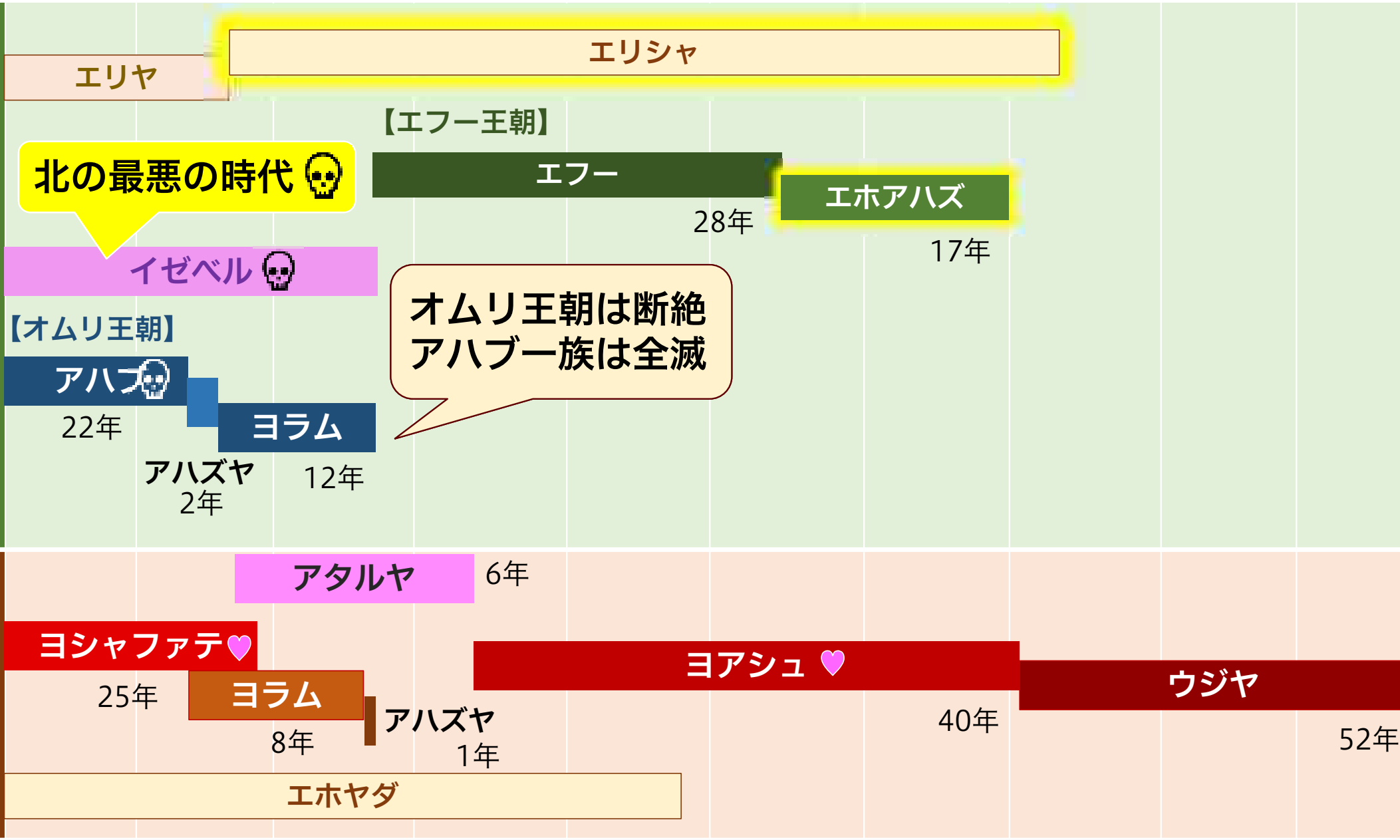
# I. 北王国11代・エホアハズ 列王記第二 14章1～7節



サマリア

北王国 イスラエル

南王国 ユダ



北の最悪の時代

オムリ王朝は断絶  
アハブ一族は全滅

ヨシャファテ

ヨアシュ

## 北11 エホアハズ 積み重なる罪 列二13:1~2

ユダの王アハズヤの子ヨアシュの第二十三年に、エフーの子**エホアハズ\***がサマリアでイスラエルの王となり、十七年間、王であった。

彼は【主】の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪を犯し続け、それから離れなかった。

\*“ヤハウエが所有された”

■エホアハズもまた、初代ヤロブアムが立てた金の子牛を拝み続けた。

→ひたすら積み重ねられていくイスラエルの罪



サマリア

## 北11 エホアハズ 憐れみの主 列二13:3~4

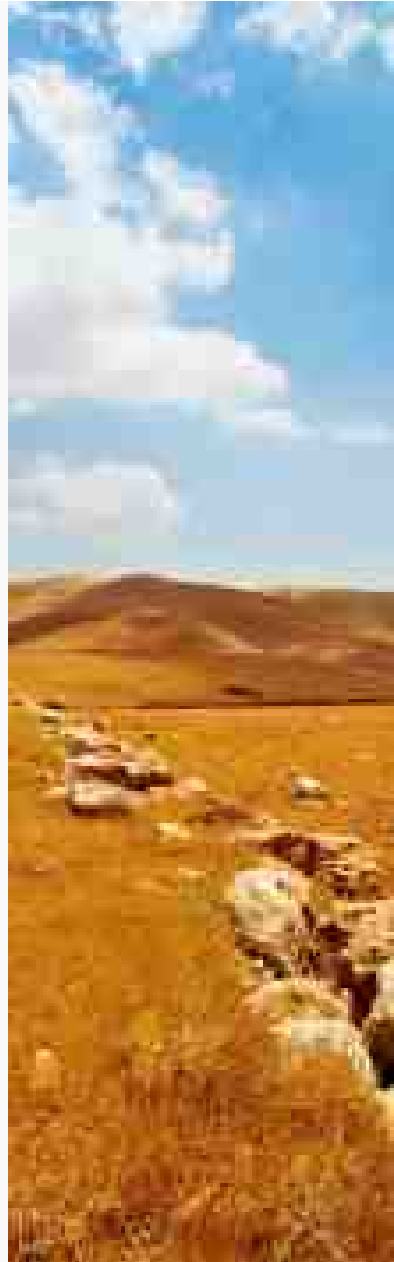
そのため、【主】の怒りがイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らをアラムの王ハザエル\*、および、ハザエルの子ベン・ハダド\*の手に絶えず渡しておられた。

しかし、エホアハズが【主】に願ったので、【主】はこれを聞き入れられた。アラムの王の虐げによって、イスラエルが虐げられているのをご覧になったからである。

\*裁きの器として主が選び、エリシャが油を注いだ。

\*ベン・ハダド三世

■主が憐れまれた。アハブへの裁きを忠実に遂行した父エフーへの祝福と約束のゆえだろう。



## 北11 エホアハズ ヨ 列二13:5

【主】がイスラエルに一人の救う者\*を  
与えられたので、彼らはアラムの支配を  
脱した。こうしてイスラエル人は以前の  
ように、自分たちの天幕に住むよう  
になった。

\*アッシリア王アダッド・ニナリ3世？

■後に北王国を滅ぼすアッシリアが、  
北方で勢力を拡大しつつあった。



## 北11 エホアハズ ヨ 列二13:6

それにもかかわらず、彼らは、イスラエルに罪を犯させたヤロブアム家の罪から離れず、なおそれを行い続け、アシェラ像\*もサマリアに立ったままであった。

\*雷神バアルの妻・豊穡の女神

- 主の深い憐れみによって、破滅を免れたにも関わらず…。
- 救い手となったアッシリアが、後には、神の裁きの器として用いられることに。



## ローマ人への手紙 2章3～5節

そのようなことを行う者たちをさばきながら、同じことを行っている者よ、あなたは神のさばきを免れるとでも思っているのですか。

それとも、神のいつくしみ深さがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かないつくしみと忍耐と寛容を軽んじているのですか。

あなたは、頑なで悔い改める心がないために、神の正しいさばきが現れる御怒りの日の怒りを、自分のために蓄えています。

**私たち人類の今は、神の計り知れない忍耐の上に保たれている**



## 北11 エホアハズ 残存兵 列二13:7

また、アラムの王が彼らを滅ぼして、打穀のときのちりのようにしたので、エホアハズには騎兵五十、戦車十、歩兵一万の軍隊しか残されていなかった。

\*ソロモン時代には、騎兵1万2千。戦車千4百。

二百分の一、百分の一の戦力に…。

■今なら、戦車と戦闘機をほぼ失ったようなもの。

→国としての体をなしていない。



## 北11 エホアハズ ヨ 列二13:8~9


エホアハズについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、その功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

エホアハズは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をサマリアに葬った。彼の子ヨアシュが代わって王となった。

■ 特筆すべき功績もなかったエホアハズ。

イスラエルは、滅びの階段を一つ上った



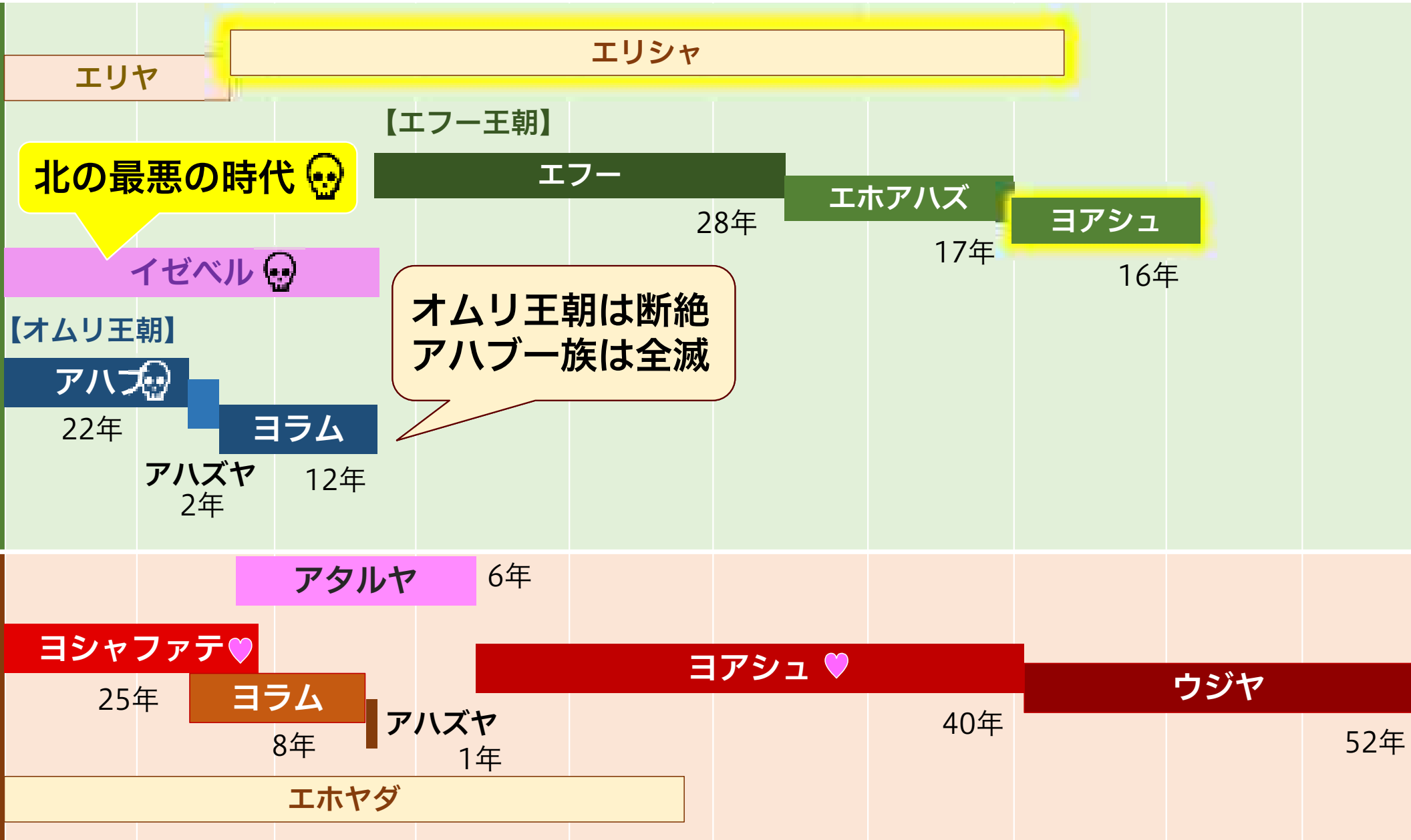


II. 北王国12代・ヨアシュ 列王記第二 13章10～13節

荒野の黄昏

北王国 イスラエル

南王国 ユダ



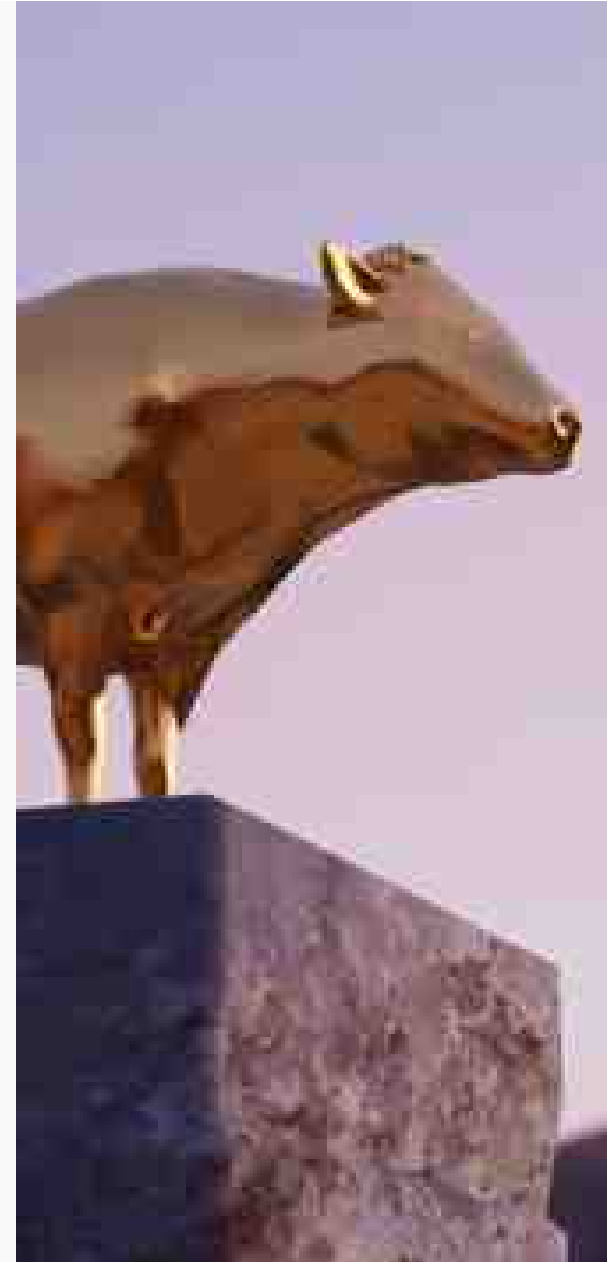
## 北12 ヨアシユ 北のヨアシユ 列二13:10~11

ユダの王ヨアシユの第三十七年に、エホアハズの子ヨアシユ\*がサマリアでイスラエルの王となり、十六年間、王であった。

彼は【主】の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムのすべての罪から離れず、**なおそれを行い続けた\***。

\*“主によって与えられた”

\*代を重ね、イスラエルの罪はさらに積み上がっていく。



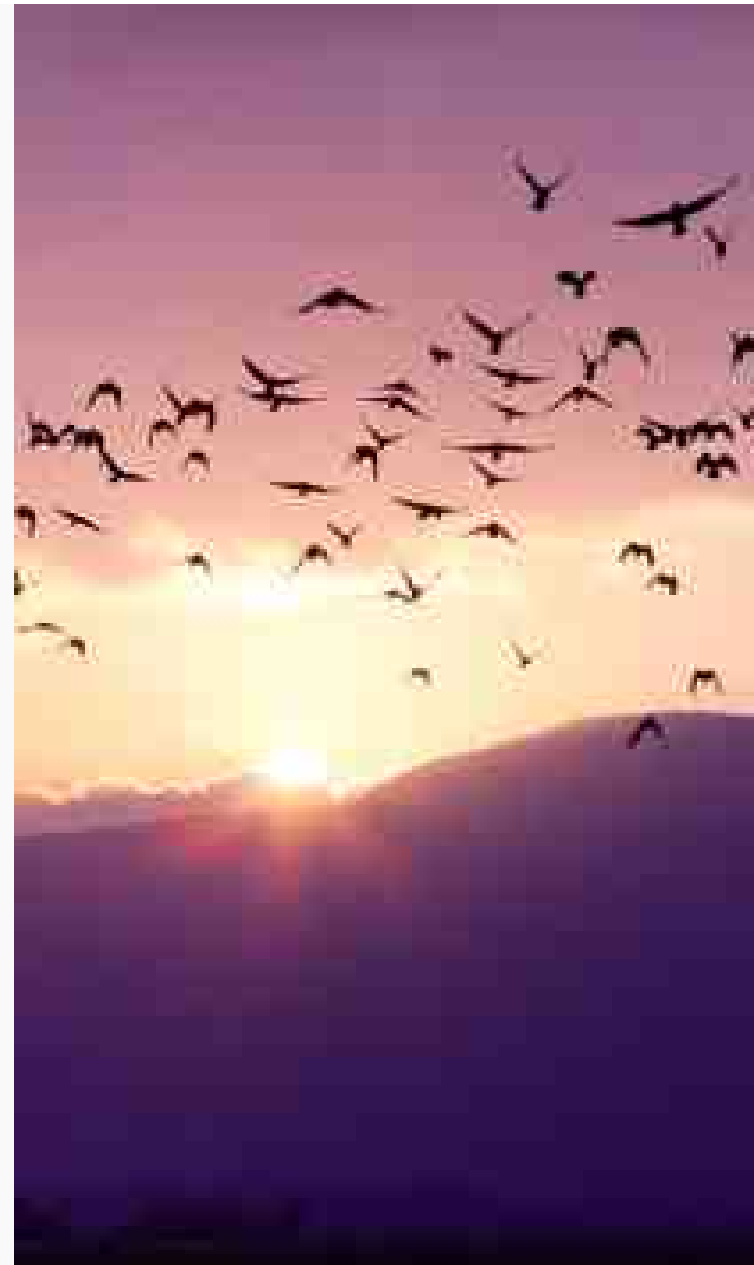
## 北12 ヨアシュ **まとめ** 列二13:12~13

ヨアシュについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、ユダの王アマツヤと戦ったその功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

ヨアシュは先祖とともに眠りにつき、ヤロブアムがその王座に就いた。ヨアシュはイスラエルの王たちとともにサマリアに葬られた。

■ 治世のまとめの後、個別のエピソードが。

➡ 著者が光を当てたいのは、ヨアシュの時代に死んだ、**預言者エリシャ**その人。





### Ⅲ. ヨアシュ王とエリシャ 列王記第二 13章14～19節

ヨルダン溪谷・エリコと死海

## 北12 ヨアシュ エリシャの死の病 列二13:14

エリシャが死の病をわずらっていたときのことである。イスラエルの王ヨアシュは、彼のところに下って行き、彼の上に泣き伏して、「わが父、わが父。イスラエルの戦車と騎兵たち\*」と叫んだ。

\*エリヤの携拳の時に、エリシャが叫んだ言葉。

➔ 預言者こそ、イスラエルを守る神の軍隊の精鋭。その筆頭が、エリヤを継いだエリシャ。

■ 預言者を自ら訪問した王は、北王国では初めて。

➔ 神が選び、エリシャが油注いだのが祖父エフー。最大の後ろ盾を失うことので不安が露わに。





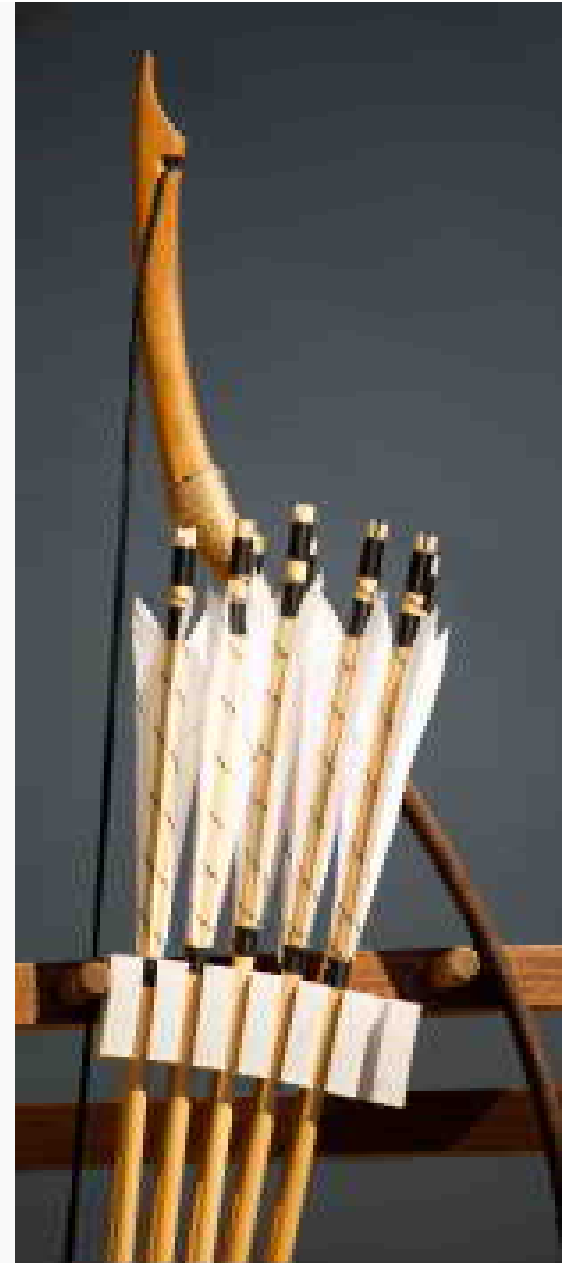
## 北12 ヨアシュ 弓と矢 列二13:15~16

エリシャが王に「弓と矢\*を持って来なさい」と言ったので、王は弓と矢をエリシャのところに持って来た。エリシャはイスラエルの王に「弓に手をかけなさい」と言ったので、王は手をかけた。

\*祖父エフーは、弓矢の名手だった。

➡ヨラム王を打ち殺し、アハブの血筋を断ったのは、エフーの放った矢だった。

■弓矢は、エフー王朝に連なるヨアシュ王にとって、王の権威を象徴するものだっただろう。



## 北12 ヨアシュ 墮 王ニ13:16~17

すると、エリシャは自分の手を王の手の上に置いて、「東側\*の窓を開けなさい」と言った。王が開けると、エリシャはさらに言った。「矢を射なさい。」彼が矢を射ると、エリシャは言った。「【主】の勝利の矢、アラムに対する勝利の矢。あなたはアフエク\*でアラムを討ち、これを絶ち滅ぼす。」

\*アラムは、ヨルダン川東岸から攻めてきた。

\*ヨルダン川東岸の地



## 北12 ヨアシュ 墮 列二13:18~19

それからエリシャは、「矢を取りなさい」と言ったので、イスラエルの王は取った。そしてエリシャは王に「それで地面を打ちなさい」と言った。すると彼は三回打ったが、それでやめた。

神の人は彼に激怒して言った。「あなたは五回も六回も打つべきだった。そうすれば、あなたはアラムを討って、絶ち滅ぼすことになっただろう。しかし、今は三回だけアラムを討つことになる。」

■ 地面に向かって三度だけ矢を放ったヨアシュ。

→ 三度だけアラムを撃退することに。

エリシャの最後の預言



# イスラエルの背きの預言

詩篇79篇9～11節

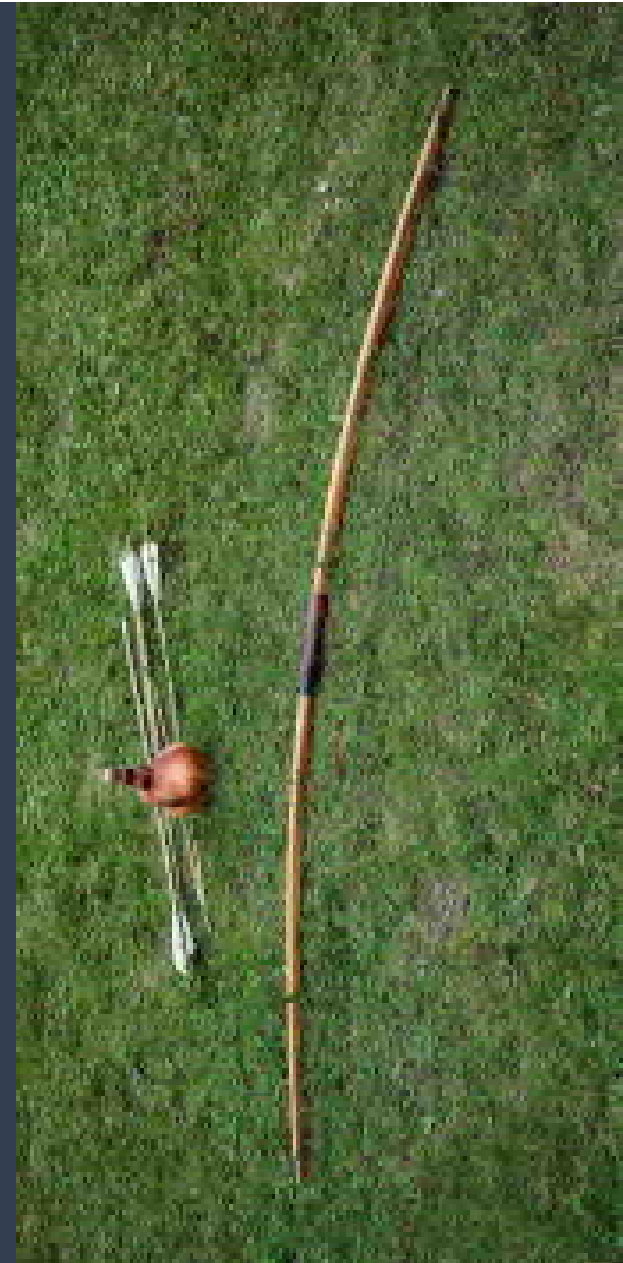
エフライムの人々は弓を射る者であったが  
戦いの日には退却した。

彼らは神の契約を守らず

神のおしえに従って歩むことを拒み

神の数々のみわざを忘れてしまった。

神が見せてくださった多くの不思議を。





## IV. エリシャの死後

列王記第二 13章20～25節

イスラエル南部の洞窟

## 北12 ヨアシュ エリシャの死 列二13:20~21

こうして、エリシャは死んで葬られた。モアブ\*の略奪隊は、年が改まるたびに\*この国に侵入していた。

\*モアブ …ロトの子孫。ルツの出自。

→ヨラム王の時代、南北の連合軍に敗退。

一時期は、イスラエル従属していた。

\*新年(過越祭)が過ぎ、麦の収穫が終わった頃。

■ 信仰の回復もなく、弱体化したイスラエルを見ながら、エリシャは召されていった。



## 北12 ヨアシュ よみがえり 列二13:21

人々が、一人の人を葬ろうとしていたちょうどそのとき、略奪隊を見たので、その人をエリシャの墓に投げ入れて\*去って行った。その人がエリシャの骨に触れるやいなや、その人は生き返り、自分の足で立ち上がった。

\*洞窟を利用した簡素な墓だったので。  
縦穴から放り込んだのか？

→遺体は骨だけ。死後、数年が経過。

■エリシャが死んでも、イスラエルの主は生きて働かれ続けている。



エリシャの主は  
生きておられる

## 北12 ヨアシュ ハザエル 列二13:22~23

アラムの王ハザエル\*は、エホアハズの生きている間中、イスラエル人を虐げたが、【主】は、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約のゆえ\*に、彼らを恵み、あわれみ、顧みて、彼らを滅ぼし尽くすことは望まず、今日まで、御顔を背けて彼らを捨てることはなさらなかった。

\*主が裁きの器として立てたハザエルだが…。

\*アブラハム契約のゆえに

■主は、一方的な約束に基づく恵みによって、なお、イスラエルを見捨てられなかった。





## 北12 ヨアシュ **ハザエルの死** 王二13:24~25

アラムの王ハザエルは死に、その子**ベン・ハダド\***が代わって王となった。

エホアハズの子ヨアシュは、その父エホアハズの手からハザエルが攻め取った町々を、ハザエルの子ベン・ハダドの手から取り返した。ヨアシュは三度彼を打ち破って、イスラエルの町々を取り返した。

\*三人目の**ベン・ハダド**。ベン・ハダド三世。

■主が裁きの器として立て、用いたハザエルだが、主に従うこともなく、死後には力も失われた。

**エリシャとは  
対照的**





## V. まとめと適用

復活の主だからこそ 希望を置いて歩もう

## 【ヨアシュが射た弓の意味】

- 弓は、戦い、力を象徴するもの。  
ヨアシュ王の弓は、敵に対するイスラエルの力を示す。
- エリシャを「イスラエルの戦車と騎兵たち」と呼んだヨアシュ。  
エリシャを軍の将と認めるなら、その命令には徹底して従うべき。  
しかし、ヨアシュが促されて弓を射たのは三度だけだった。
- 中途半端な神への従順は、中途半端な結果しかもたらさない。  
煮え切らない信仰生活を送っていないかと、主に問われる。

**覚えるべきは、徹底して完遂される主の約束。究極がメシア。**

## ヤコブの遺言・メシア預言

創世記49章22～24節

ヨセフは実を結ぶ若枝、泉のほとりの、実を結ぶ若枝。  
その枝は垣を越える。

弓を射る者は激しく彼を攻め、彼を射て苦しめた。  
しかし、彼の弓はいつも固く張られ、彼の腕はすばやい。  
ヤコブの力強き方の手から、  
そこから、**イスラエルの岩である牧者**が出る。

■ユダの血筋である**メシア**は、後に北の地(ナザレ)から出た!!

## 【約束のメシアは来られ、再び来られる】

- イスラエルに、ヤコブの代にすでに与えられていた**メシア**預言。王と民が求められたのは、主の約束をすべて信頼し通すこと。イスラエルの末に、**メシア**は現れると。
- **メシア**は来られ、十字架で救いの御業を成し遂げられた。天に昇られた**メシア**は、栄光の王として再び戻って来られる。世の終わりの裁き・大患難の前に、信じる者を引き上げられる。
- 再び来られる**主**を信頼し、待ち望みつつ、今を生きる力を得よう。

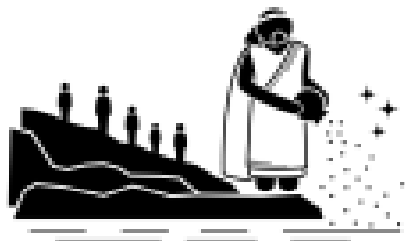
## 【エリシャの希望はどこにある？】

- 火の戦車で天に挙げられたエリヤ。  
一方のエリシャは、病に伏して、死んだ。  
地上最後の預言、イスラエルの解放も、中途半端な結果に終わった。
- イスラエルは、ヤロブアムの悪の道をひたすら歩み続け、  
アッシリアの足音は近くなり、破滅は近づいてきていた。
- 迫害され、殺された多くの預言者たちと同様に、  
死で終わるなら、エリシャの生涯に慰めなどない。

# 【エリシャが起こした数々の奇跡】



ヨルダン川が  
分かれる



エリコの水の癒やし



熊が若者を襲う



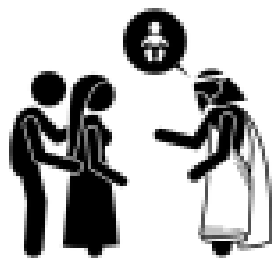
枯谷が水で満ちる



略奪隊を捕らえる



油が増える



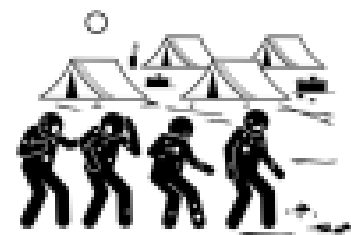
不妊の女が出産



子どもが蘇る



毒が  
消える



アラムの大軍が敗退



パンが増える



ナアマンの癒やし



ゲハジが  
ツアラアトに



斧の頭が浮かぶ



死者が蘇る

## 【エリシャの数々の奇跡が示すこと】

- エリシャほどに多くの奇跡を起こした預言者はいない。
  - ➔ 神の直接の介入の数々は、**時代の危機の重大さ**を示すもの。
- 唯一、エリシャ以上の奇跡を起こしたのが、**メシア**、**主イエス**。
  - 主イエス**の奇跡は、単にエリシャに重なる以上のもの!!
    - (※奇跡に再現性はない、似ていても違う)
  - ➔ 水をぶどう酒に変え、湖面を歩き、パンと魚をあふれさせた。
- **メシア**の究極の奇跡・しるしが、**復活**。人々を蘇らせ、死を打ち破って、栄光の体に**復活**された。



## 【エリシャの死の背後にある希望をこそ、くみ取ろう】

- 悲惨に見えるエリシャの死は、ごくあっさりとして記されている。
  - ➔ 強調されているのは、死後にすら現れた主の**復活**の奇跡。  
それは、エリシャ自身の将来の**復活**をも示唆するもの。  
(旧約時代の聖徒たちは、主の再臨の後に**復活**する)
- ヨアシュに弓を取らせたエリシャは、ヤコブの預言を知っていた筈。  
主が、王と民に求めたのは、約束を信じてメシアを待ち続けること。  
私たちのメシアは、十字架にかけられ、死を打ち破って**復活**された。

私たちが覚え、待ち望むべきは、再び来られる栄光の主イエス

## 【最悪の時代の唯一の希望に生きよう】

- 感染症で命を落とす人がいる。残虐に殺される人がいる。預言者も弟子たちも、多くは無残な死を遂げた。何より、主イエスは、嘲りの内に十字架で死んだ。
- 教会時代の信者、弟子に約束されているのは、この世の苦難。私を待ち受けているのは、悲惨極まりない残酷な死かもしれない。  
※ゼレンスキー大統領のインタビューの言葉
- 希望は、復活の主にある。福音を信じた私も必ず復活させられる。暗さを増す世界で、本当の希望をもたらせるのは、私たちだけだ。

**絶望の底にいる人々に、死からの勝利、永遠の救いを伝えよう**

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。

わたしは、まぎれもない罪人です。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

感謝します。わたしは、きよいもの、永遠に主の子どもとされました。

地上には、苦難がありますが、世の終わりまで、主が共におられます。

主が栄光の姿で戻られる、再臨の時を待ち望みます。

復活の希望を力として、福音宣教の使命に歩ませてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」